

京都留学生フォトコンテスト 2022 受賞作品 審査コメント

Praise from the judges for award winners of Photo Contest for International Students in Kyoto 2022

最優秀賞・Study Kyoto PR チーム賞 1/Grand Prize & Study Kyoto PR Team Prize 1

(作品名) No.53, Go ahead with a text book of mine. Under the Kyoto's brightest sky

(受賞者) Duangkamon Kamonsakpitak, Kyoto Minsai Japanese Language School

<審査員コメント/Judge's comment>

目に飛び込んできた被写体から瞬時に受け取ったイメージを、パースを効かせた大胆な構図に包括的に写し込むことに成功し、鑑賞者に明るい物語を感じさせてくれる写真に仕上がっています。

キャプションとして添えられたメッセージも、作者自身が被写体一つひとつから一瞬で感受した意味を丁寧に読み解いて言語化できています。

写真とキャプション双方から、作者がこの瞬間を撮影するに至った「京都で学ぶ魅力」が、鑑賞者に存分に伝わる素晴らしい作品となりました。

<PR チームコメント/PR Team's comment>

自転車のカゴに入っている「みんなの日本語」は、日本語を勉強した留学生であれば、ほとんどの人が使ったことがある ICONIC な教科書で、一人一人思い入れがあると思います。撮影者の日常の一瞬を切り取った写真で、同じ留学生としてどこかで見た景色でありながら、よく晴れた空、まっすぐ続く道、そして目の前の青信号が、明るい将来を感じさせるもので、とても前向きなエネルギーを持った写真だと思いました。

優秀賞 1/Second Prize 1

(作品名) No.51, 避難所

(受賞者) ZHEN GYUEHAO, 京都精華大学

<審査員コメント/Judge's comment>

作者は「ごく普通のシーン」と述べていますが、京都の夏はとても蒸し暑いと言われています。そして、日陰やバス停留所などの気化熱を利用して涼を求めるミスト設備は、まさに「避難所」だと思います。写したいものたちを明るい光と影のコントラストの中に捉えて、京都の暑い夏を Cool に表現しています。

優秀賞 2/Second Prize 2

(作品名) No.85, 「初めての、初めての、初詣」

(受賞者) 金 佳賢, 同志社大学

<審査員コメント/Judge's comment>

気取らずに恥ずかしがりながらも楽しんでいる姿がとても素敵です。

異文化の国で学ぶ留学生活においては、戸惑いもあるでしょうが、自国では得られない視点を養う事ができると思います。応募された作品のイメージだけでなく、作者のコメントと合わせて自分でできる範囲で、京都での学生生活を通して、日

本の文化に楽しみながら触れようとしている事が伝わってきます。

優秀賞 3/Second Prize 3

(作品名) No.126, 京都に触る

(受賞者) ZHU MENGSHAN, 京都大学

<審査員コメント/Judge's comment>

写真は、思いもなかった関係性を写し取ることがあります。本来なんの関連もない事物たちを、その四角いフレームで結びつけてしまうのが写真のはたらきのひとつかもしれません。ガラスに映り込む舞妓の後ろ姿のイラストと自動販売機、そしてそのガラス越しに見えるビールの缶。街角で異質なもの同士が偶然に、光学的に出会った瞬間に、京都の多層性／多様性を見出した撮り手の鋭敏な感覚に脱帽しました。

審査員特別賞 1/Best Judge's Prize 1

(作品名) No.28, 自分自動

(受賞者) Keren Zohar, 同志社大学

<審査員コメント/Judge's comment>

自動販売機に異文化性を見たことが、留学生ならではの視点であると感じました。日本国内では屋内外を問わず至る所に存在する自動販売機に驚きと興味を持ち、その気付きをストレートに写真にしたという着眼点を高く評価しました。購入されたであろう商品が「緑茶」である点もまた、日本・京都での生活を楽しんでいる姿としてうまく表現されており、ユニークに感じました。

審査員特別賞 2・Study Kyoto PR チーム賞 2/

Best Judge's Prize 2 & Study Kyoto PR Team Prize 2

(作品名) No.110, The best of both world

(受賞者) Tang Phattharaphuti, Kyoto University

<審査員コメント/Judge's comment>

留學生活の主な目的の一つは、自身の研究分野の学びをより深める事だと思いますが、日常の中では大変な事も楽しい事も混ざり合って充実していくのではないのでしょうか。この作品からは、応募者が伝統的な祭りの見学に行こうとする中で、時間を惜しんで研究する姿が良く表れています。それぞれの状況の違いはあるにしても、多くの留学生たちには、留學生活の中で、その地の生活を楽しむ姿があるのでしょうか。

<PR チームコメント/PR Team's comment>

「京都」と「留學」というテーマを、1枚の写真に凝縮したような写真だと感じました。京都のイメージである着物（浴衣）を着てこれから向かう祇園祭にわくわくしつつ、やるべき実験をしっかりとこなす。京都に留學する学生としてとても共感でき、この方の気持ちを色々想像してしまうような写真です。「着物」と「実験」という全然別のものが、1枚の写真にしっかりと共存できるのも、京都留學の醍醐味なのかもしれません。

審査員特別賞 3/Best Judge's Prize 3

(作品名) No.132, 7

(受賞者) Alexander Rütjes, Kyoto University

<審査員コメント/Judge's comment>

撮影者を真剣なまなざしで見つめる少女と、それを気遣う母親。商店街の一角で出会った偶然のスナップショットにも思えますが、作品紹介を読むと、撮影の前に十分な被写体とのコミュニケーションが取られていたことや、わざわざ自分の同行者たちを背後に配するという綿密な計算がなされていたことがわかります。落ち着いた色調のなか、ステンレスの商品台から右手奥に視線が誘導され、そこにあった色んな物語を語っているかのようです。

Study Kyoto PRチーム賞 3/Study Kyoto PR Team Prize 3

(作品名) No.20, International Friendship Collaboration

(受賞者) Thebuwanage Shashika Srimali, The Kyoto College of Graduate Studies for Informatics

<PRチームコメント/PR Team's comment>

「鴨川」「自然」「自転車」「友達」。留学生が京都での留学生生活を思い浮かべる時、キーワードとなるものが、この写真にはちりばめられていると思います。留学は「自分」がするものですが、生活をする上では人とのつながりが必要になります。楽しいときだけでなく、大変なとき一緒にいてくれるのも友達です。自分の国とは違う国で生活するときに特に大切だと感じる、人とのつながりをこの写真から感じました。

-----以上-----